

高鍋町水道事業経営戦略

令和 3 年 3 月
高鍋町上下水道課

高鍋町水道事業経営戦略

団 体 名 : 宮崎県児湯郡高鍋町

事 業 名 : 高鍋町水道事業

策 定 日 : 令和 3 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 3 年度 ~ 令和 12 年度

1. 事業概要

(1) 事業の現況

① 給 水 (令和2年3月31日現在)

供 用 開 始 年 月 日	昭和44年 8月 1日	計 画 給 水 人 口	21,000 人
法 適 (全 部 ・ 財 務) ・ 非 適 の 区 分	法適(全部)	現 在 給 水 人 口	18047 人
		有 収 水 量 密 度	1.94 千m ³ /ha

② 施 設

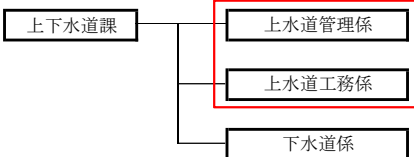
水 源	☐ 表流水 , ☐ ダム , ☒ 伏流水 , ☒ 地下水 , ☐ 受水 , ☐ その他 (複数選択可)			
施 設 数	浄水場設置数	2	管 路 延 長	1.66 千m
	配水池設置数	1		
施 設 能 力	9000 m ³ /日	施 設 利 用 率	74.5	%

③ 料 金

料 金 体 系 の 概 要 ・ 考 え 方	基本料金は口径別、従量料金は従量段階別区分により使用水量に応じて計算する。 メーター口径13ミリ～25ミリについては、従量区分1㎡～16㎡を基本水量とする。						
	(2カ月分)		単位:円(税抜き)				
	メーター 口径	基本料金	従 量 料 金 (1 ㎡ あ た り)				
			従 量 段 階 別 区 分				
			1㎡～16㎡	17㎡～20㎡	21㎡～40㎡	41㎡～60㎡	61㎡以上
	13ミリ	2,800	90円	105円	140円	165円	210円
	20ミリ	2,800					
	25ミリ	2,800					
	30ミリ	9,800					
	40ミリ	20,200					
50ミリ	36,200						
75ミリ	62,400						
料 金 改 定 年 月 日 (消費税のみの改定は含まな		平 成 9 年 4 月 1 日					

④ 組 織

組織体制は以下のとおり。



```
graph LR; A[上下水道課] --- B[上水道管理係]; A --- C[上水道工務係]; A --- D[下水道係];
```

職員数は以下のとおり。

職名	人数(人)
課長	1
課長補佐	1
係長	2
主事	2
会計年度任用職員	1
合計	7

(2) これまでの主な経営健全化の取組

水道事業の健全経営の推進を目的として、平成28年度に「高鍋町水道事業 浄水場基本計画及びアセットマネジメント」を策定。また、有収率向上のため、定期的な漏水調査を実施している。

(3) 経営比較分析表を活用した現状分析

※ 直近の経営比較分析表(「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」(公営企業三課室長通知))による経営比較分析表)を添付すること。

別添「経営比較分析表」参照。

2. 将来の事業環境

(1) 給水人口の予測

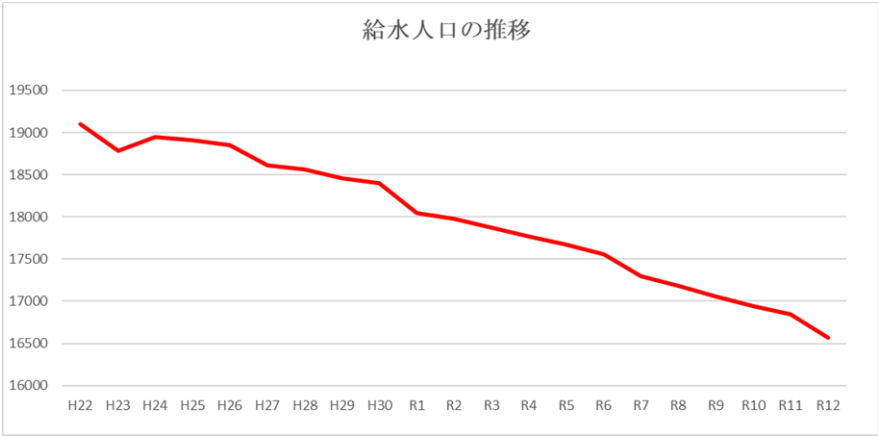
高鍋町人口ビジョンを参考に、人口と給水人口の割合や、減少率を基にして推計している。給水人口は、今後減少していくと推察される。

給水人口
実績

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
給水人口(人)	19,103	18,785	18,947	18,905	18,852	18,611	18,568	18,455	18,402	18,047

給水人口
推計

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
給水人口(人)	17,975	17,877	17,769	17,669	17,552	17,300	17,179	17,052	16,945	16,850	16,850

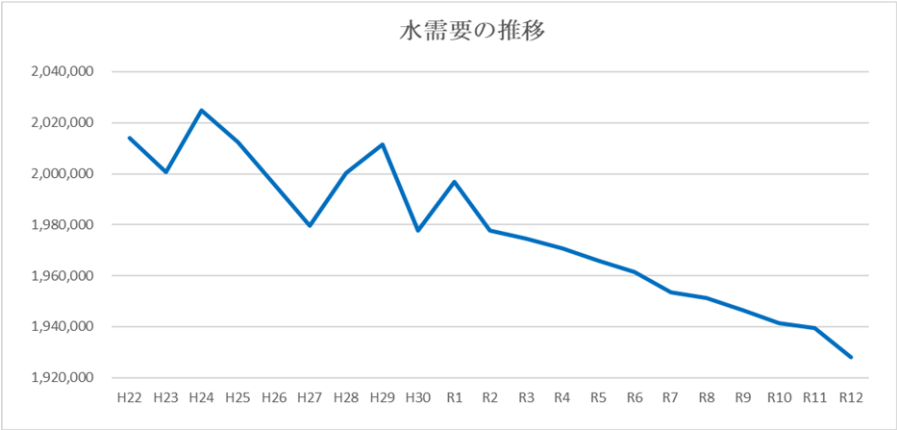


(2) 水需要の予測

給水人口1人当りの有収水量と給水人口の推移、有収水量の推移及び有収率の平均から、有収水量を推計している。水需要も給水人口と同様に、今後減少していくと推察される。

水量実績	年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
	配水量(㎡)	2,246,117	2,161,909	2,208,126	2,282,229	2,288,874	2,258,952	2,272,145	2,297,300	2,366,567	2,454,927
	有収水量(㎡)	2,014,153	2,000,683	2,024,785	2,012,491	1,995,935	1,979,714	2,000,350	2,011,597	1,977,779	1,996,714

水量推計	年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
	有収水量(㎡)	1,977,600	1,974,374	1,970,867	1,965,929	1,961,443	1,953,515	1,951,161	1,946,625	1,941,360	1,939,485	1,927,927

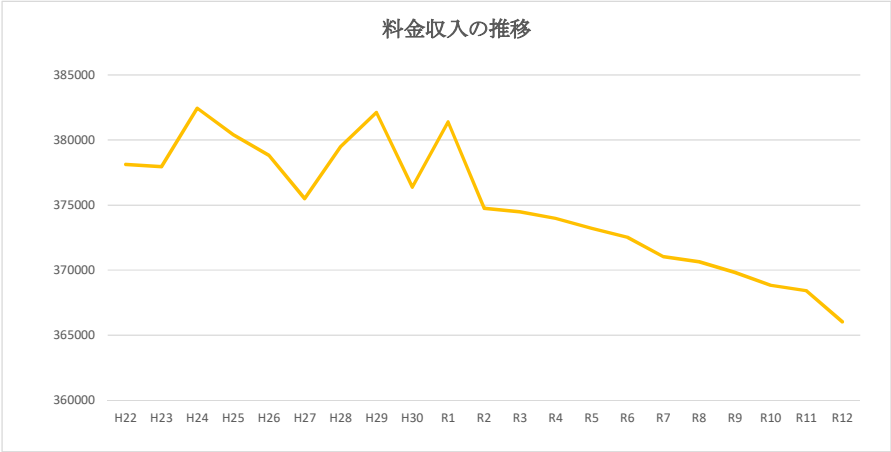


(3) 料金収入の見通し

「水需要の予測」による有収水量の推計から、料金収入を推計している。料金収入についても、水需要・給水人口と同様に、今後減少していくと推察される。

料金収入実績	年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
	料金収入(千円)	378,124	377,952	382,446	380,414	378,824	375,502	379,497	382,121	376,372	381,394

料金収入推計	年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
	料金収入(千円)	374,758	374,495	373,981	373,216	372,524	371,043	370,647	369,833	368,838	368,421	366,023



(4) 施設の見直し

「高鍋町水道事業 浄水場基本計画及びアセットマネジメント」において策定した施設の更新計画に基づき、重要度や経年劣化による老朽化を考慮して、更新の優先順位を設定し効率的な施設更新を図る。

(5) 組織の見直し

「④組織」に記載する組織で、水道事業を運営している。技術職員2名については、専門性の観点からも技能や知識の継承とのバランスを考慮し、今後の業務内容に対応できる適正な職員の配置を検討する。

3. 経営の基本方針

宮崎県水道ビジョンの理想像である「安全」、「強靱」、「持続」を基本理念とし、次のとおりとする。

- 1.「安全」・・・安全・安心な水を供給し続ける水道
水道水の水質管理のため、適切な浄水処理、管路内の水質保持に努め、町民が安心して利用できる水道水を供給する。
- 2.「強靱」・・・災害の影響を最小限にとどめる強靱な水道
地震等の災害時に水道水を安定供給するためにも、水道施設の健全度が低下しないよう、施設の耐震化を図る。
老朽施設、機器及び管路については、施設の重要度により更新の優先順位を決め、計画的な更新を図る。
- 3.「持続」・・・将来にわたって健全な事業運営が持続する水道
給水人口の減少に伴う料金収入の減少においても、施設更新のための財源確保が必要となるため、健全かつ安定した事業運営を目指す。そのために、コスト縮減や人材育成、技術継承といった運営の効率化を図るとともに、水道料金の改定についても検討していく。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	○継続的、計画的な老朽管の布設替の実施 ○施設の効率的な運営
-----	-----------------------------------

- 1.有収率の維持・向上のためにも、老朽管の計画的な布設替を実施していく。
今後10年間で、約6千万円／年の規模を計画しており、管路の耐震化率向上に努める。
- 2.老朽化している老瀬浄水場の運営については、建替えには莫大な費用がかかることから、竹嶋浄水場の一本化や、他事業体との浄水施設の共同運営等を含め、様々な方法を模索しながら効率的な運営を図る。

② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	○投資を見据えた財源の確保 ○企業債残高の抑制
-----	----------------------------

1.料金収入 給水人口の減少に伴い、料金収入も減少していくと予想されるが、今後10年の経常損益は黒字である。今後もコストの縮減に努め、今後の投資に必要な財源としての積立金を確保していく。 2.企業債 確保すべき自己資金額に過不足の生じることの無いように建設改良事業について借入れを行うとともに、更新計画を随時見直しながら、借入額の抑制や内部留保資金を活用し、将来負担の減額に努める。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

1.委託料 水道量水器の検針業務や、施設警備等については、既に民間委託を実施しており、今後、大幅な増減は無いと予想される。 2.修繕費 管路の修繕と共に、施設機械の修繕も経年劣化により、増加傾向になると予想される。 3.動力費 配水量と有収率の推移から、増加傾向になると予想される。 4.職員給与費 職員数の増加の見込みは無く、今後、大幅な増減は無い。
--

(3)投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 投資について検討状況等

民 間 の 資 金 ・ ノ ウ ハ ウ 等 の 活 用 (P F I ・ D B O の 導 入 等)	民間活力の導入について検証し、費用対効果をよく見極めながら、どのような形で取り入れていくかを十分に検討する。
施 設 ・ 設 備 の 廃 止 ・ 統 合 (ダ ウ ン サ イ ジ ン グ)	有収率の向上・維持に努めながら、適切な給水量に見合った、より効率的な施設運用を目指し、適正な施設能力への変更を図る。
施 設 ・ 設 備 の 合 理 化 (ス ペ ッ ク ダ ウ ン)	取水能力と給水量について、定期的に見直しを図る。
施 設 ・ 設 備 の 長 寿 命 化 等 の 投 資 の 平 準 化	機器の点検整備を重点的に行い、機器の延命化、更新計画の見直しを行う。 アセットマネジメントを基に、施設更新の平準化を検討する。
広 域 化	「宮崎県中部地区水道企業協議会」において、研修等を実施している。今後、コスト縮減や事務の簡素化等を精査した上で、検討を重ねていく。
そ の 他 の 取 組	国・県の補助事業を活用を検討していく。

② 財源について検討状況等

料 金	可能な限り現状維持を図る。
企 業 債	将来の負担増とならないように、新たな企業債の借入は必要最小限として、企業債残高の抑制に努める。
繰 入 金	独立採算制の原則のもと、基準内繰入金のみとする。
資産の有効活用等(*2)による 収 入 増 加 の 取 組	
そ の 他 の 取 組	

③ 投資以外の経費についての検討状況等

委 託 料	必要最小限の職員数にて事業を運営しているため、新たな民間委託はコスト増となることが懸念される。内容を精査し、費用対効果が向上するような事案であれば、検討していく。
修 繕 費	有収率の維持、向上のためにも、引き続き、管路の定期的な点検、修繕の実施を予定している。今後も、これまでと同程度の費用が必要になると推察される。
動 力 費	管路の漏水対応を強化することにより、有収率の向上、施設の効率化を図り、動力費の削減に努める。
職 員 給 与 費	計画的な技術や知識の継承のため、人事異動等もあると思われるが、今後も、必要最小限の職員数にて事業を運営していく。
そ の 他 の 取 組	新たな技術の活用や他事業体の運営方法等、調査や研修を積極的に行い、事業費の削減を図る。

5. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経 営 戦 略 の 事 後 検 証 、 更 新 等 に 関 する 事 項	計画(Plan)・実施(Do)・検証(Check)・見直し(Action)のPDCAサイクルにより評価・検証を行い、5年毎に見直しを行う。 また、大規模な投資が見込まれることとなった場合は、その都度、事業内容の確認等を行い、計画を策定する。
---	---

経営比較分析表（令和元年度決算）

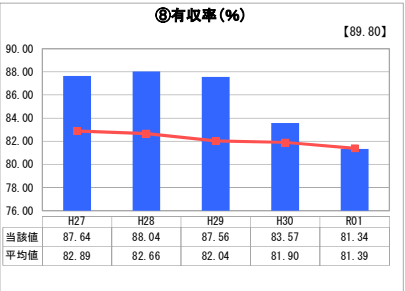
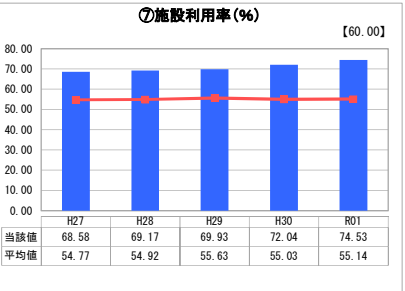
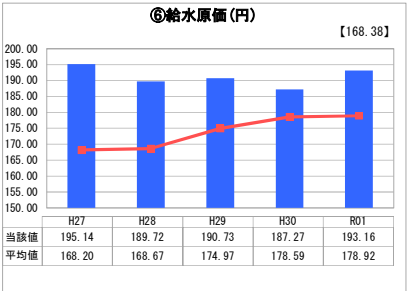
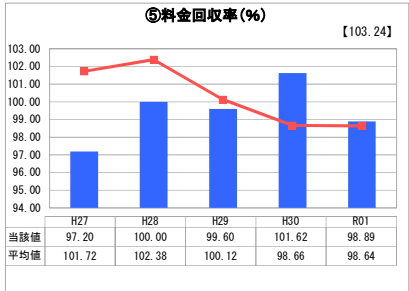
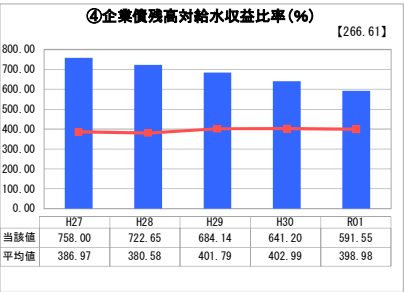
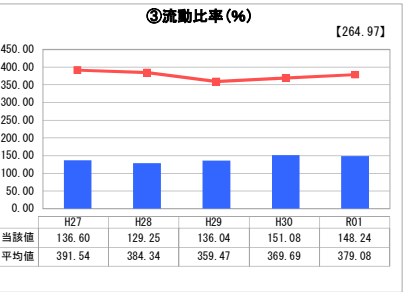
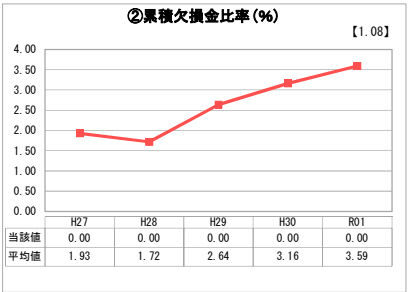
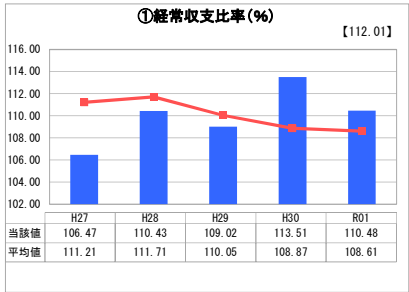
宮城県 高鍋町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	49.03	89.26	3,311	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,283	43.80	463.08
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,047	10.28	1,755.54

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
平成30年度と比較すると減少してはいるが、令和元年度の経常収支比率は100%を超えており、健全な水準にある。
- ②累積欠損金比率
欠損金がないため、健全な状態にある。
- ③流動比率
100%を超えており、健全な水準にある。流動資産・流動負債ともに、大きな変動は予想されないため、今後、大きく増減することなく推移するものと推察される。
- ④企業債残高対給水収益比率
高い水準ではあるが、年々減少傾向にあり、今後も減少していくものと推察される。
- ⑤料金回収率
100%を下回っているが、平均値並であり、健全な水準にある。今後は100%前後で推移していくと推察される。
- ⑥給水原価
類似団体と比較して高い水準にあり、今後は有収率等をきめ、改善していく必要がある。
- ⑦施設利用率
類似団体と比較して高い水準で、適切かつ効率良く水道施設を利用してきており、良い状態を維持できている。
- ⑧有収率
類似団体と同水準程度にあるが、前年度、前々年度と比較して減少してきている。今後、漏水調査等を計画的に実施し、効率の良い運営をしていく必要がある。

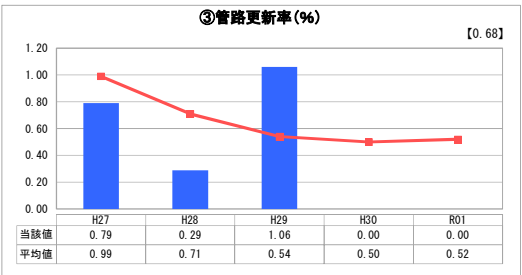
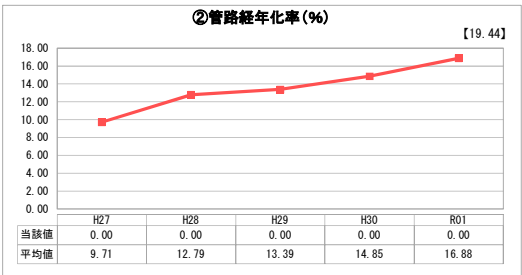
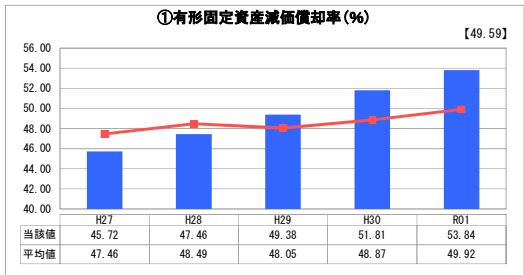
2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
平均値より高い水準であり、今後も増加していくと推察される。定期的な施設の更新が必要となる。
- ②管路経年化率
当該値0%のため、適正に管路更新が実施できている。
- ③管路更新率
令和元年度決算数値は(0.92)が正となる。平均値と比較して高い水準にあり、計画的な管路更新が行われている。

全体総括

計画的に管路の更新を実施しているため、企業債残高対給水収益比率は高いが、概ね健全な経営状況にある。しかし、有収率が年々低下しているため、給水原価等を含め、経営状況に影響している。大規模な漏水調査を実施しており、経営を見直した上で、今後の健全かつ効率的な経営を継続しながら、管路や施設等の整備を実施していく。

2. 老朽化の状況



		年		平成30年度	前年度		本年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
区 分		度	(決算)	(決算見込)													
収 益 的 収 入	1. 営業収益(A)		412,264	417,310	404,906	404,544	406,982	406,217	405,525	404,044	403,648	402,834	401,839	401,133	398,415		
	(1) 料金収入(B)		376,372	381,394	374,758	374,495	373,981	373,216	372,524	371,043	370,647	369,833	368,838	368,421	366,023		
	(2) 受託工事収益(C)																
	(3) その他(D)		35,892	35,916	30,148	30,049	33,001	33,001	33,001	33,001	33,001	33,001	33,001	32,712	32,392		
	2. 営業外収益(E)		31,034	31,083	31,003	30,847	30,557	30,387	30,202	30,081	29,892	29,620	29,438	29,237	29,025		
	(1) 補助金(F)																
	(2) 他会計補助金(G)																
	(3) その他(H)																
	(2) 長期前受入金(I)		20,178	20,177	20,021	19,869	19,722	19,439	19,159	19,052	18,858	18,607	18,476	18,264	18,045		
	(3) その他(J)		10,856	10,906	10,982	10,978	10,835	10,948	11,043	11,029	11,034	11,013	10,962	10,973	10,980		
	収入合計(K)		443,298	448,393	435,909	435,391	437,539	436,605	435,727	434,125	433,540	432,454	431,278	430,370	427,440		
	支 出	1. 営業費用(L)		345,516	365,802	375,547	401,524	367,923	370,988	375,189	379,149	382,509	385,955	389,032	392,546	395,970	
(1) 職員給与(M)			23,548	26,931	36,217	51,080	33,908	33,717	33,567	33,433	33,364	33,542	33,931	34,969	35,773		
(2) 退職給付(N)			12,136	12,794	17,269	20,611	16,899	16,678	16,511	16,364	16,168	16,109	16,154	16,556	16,932		
(3) 基本給(P)			11,412	14,137	18,948	30,469	17,009	17,040	17,056	17,069	17,197	17,432	17,777	18,413	18,841		
(4) 経費(Q)			107,925	125,251	123,925	132,350	120,970	123,409	125,480	128,253	130,650	133,074	134,961	136,714	138,598		
(5) 動力費(R)			34,752	33,688	35,013	35,893	34,040	34,938	35,691	36,364	37,118	37,962	38,685	39,189	39,738		
(6) 修繕費(S)			37,702	42,243	54,097	52,950	43,028	44,751	46,175	47,902	49,369	51,234	52,793	54,157	55,315		
(7) 材料費(T)			6,212	3,252	4,073	3,664	3,803	3,881	3,989	4,017	4,140	4,057	4,109	3,898	3,963		
(8) その他(U)			29,259	46,068	30,742	39,843	40,099	39,839	39,625	39,970	40,023	39,821	39,374	39,470	39,582		
(3) 減価償却費(V)			214,043	213,620	215,405	218,094	213,045	213,862	216,142	217,463	218,495	219,339	220,140	220,863	221,599		
2. 営業外費用(W)			45,035	40,058	35,118	32,988	28,123	23,645	20,312	17,796	16,051	14,529	13,128	11,867	10,706		
(1) 支払利息(X)			45,035	40,058	35,118	32,988	28,123	23,645	20,312	17,796	16,051	14,529	13,128	11,867	10,706		
(2) その他(Y)																	
支出合計(Z)		390,551	405,860	410,665	434,512	396,046	394,633	395,501	396,945	398,560	400,484	402,160	404,413	406,676			
経常損益(=K-Z)(A)-(B)		52,747	42,533	25,244	879	41,494	41,971	40,226	3								

投資・財政計画
(収支計画)

(単位:千円)

年 度 区 分			前々年度 (決 算)	前年度 (決 算) 見 込	本年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
資本的 収 入 															

○他会計繰入金

(単位:千円)

年 度 区 分		前々年度 (決 算)	前年度 〔 決 算 〕 見 込	本年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
収 益 的 収 支 分		15,038	15,038	15,038	15,100	15,100	15,132	15,132	15,163	15,163	15,194	15,194	15,226	15,226
	うち 基 準 内 繰 入 金	15,038	15,038	15,038	15,100	15,100	15,132	15,132	15,163	15,163	15,194	15,194	15,226	15,226
	うち 基 準 外 繰 入 金													
資 本 的 収 支 分														
	うち 基 準 内 繰 入 金													
	うち 基 準 外 繰 入 金													
合 計		15,038	15,038	15,038	15,100	15,100	15,132	15,132	15,163	15,163	15,194	15,194	15,226	15,226